

第2回 本町田地区新たな学校づくり基本計画検討会 議事要旨

| | | |
|--------------|---------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催日時 | 2022年3月11日(金) 18:00~19:52 | |
| 開催場所 | 町田市立本町田小学校 ランチルーム | |
| 出席者 (敬称略) | 委員 | 末吉委員、本田委員、高柳委員、永山委員、白石委員、日高委員、手塚委員、野口委員、越水委員、中湊委員、小原委員、北澤委員、本城委員、◎若月委員、高橋委員、望月委員、○渡辺委員、杉本委員 (◎会長 ○副会長) |
| | 事務局 | 遠藤指導課担当課長、田中教育総務課長、小宮教育総務課担当課長、平川施設課長、田村学務課長、押切保健給食課長、林教育センター所長、菅野施設課担当係長、素谷施設課担当係長、根本学務課管理担当係長、都筑学務課学籍担当係長 (教育総務課総務係) 福田担当係長、中野主任 (委託業者) 株式会社教育施設研究所 太田 株式会社松田平田設計 岡田 株式会社梓設計 今井 |
| 傍聴者 | 0名 | |

議事内容

1 第1回基本計画検討会の振り返り

教育総務課 (資料1-1~2説明)

学校名(案)についてはあらためて意見募集を実施するため、検討会のスケジュールを修正

2 新たな学校の通学路の安全対策及び通学の負担軽減に関する基本情報

学務課 (資料2-1~4説明)

資料2-2~4は個人情報等を含むため、非公開資料

委員 2025年度の学区の図面(資料2-3)と今の通学路の図面(資料2-2)で、本町田東小学校区の今井谷戸よりも北の部分が抜けていないか。

学務課 資料2-2、2-3、2-4の通学区域の形状の違いとして、2-2は現在の通学区域、2-3、2-4は新しい通学区域。具体的には、今井谷戸の北側の山崎町が、新たな通学区域では七国山小学校の通学区域になる。

委員 もともと今回の統合ということに関して言うと、路線バスの使用が前提でそれを補助するという説明だったと思う。既にある学校に通う場合にはついては路線バスを使って通学するというにもある程度合意の上で、そこに居住していると思うし、そこを通る路線もあると思う。そしてそれを市が補助することは助かっている。今回のこの新設校に関して考えるときに、今まで路線バスを使っていなかった人たちが路線バスを使うということをもとにして通学を指示されたら、住民や保護者や子どもたちが感情として納得できるのかなという心配がある。

学務課 今まで徒歩で通っていた児童が突然バスに乗って通学となると、それなりの反響もあると思っている一方で、路線バスが全て充足できるような環境ではないとも考えている。また、コロナの影響もあってバスが減便されている状況。

例えば、今回であれば、一旦、本町田小に通学することになるため、今井谷戸周辺やひなた村の北側周辺の児童などのある程度遠くから通う児童については、何かしら別の手段で通学するとか、区域外の就学とかを検討していく必要はあると考えている。また、そういったご意見もこの検討会でいただければ、それを教育委員会に持ち帰って再度検討したい。

委員 もともとスクールバスのような形の通学用のバスを走らせるということに関しては、登下校の時間というのはある程度限定されるので、その部分を十分に考慮してほしい。例えばピストンとかもこの距離であれば考えられるので、あまりこの路線バスを使用して、補助金がこういうふうに出るからという発想は、この統合案の中には合わないのかもしれないなと思った。既設でこれまでずっとそれで通っていた人たち、その地域に住んでいて最初からもうバスで通学するというのが前提な人たちはいいとは思いますが。また、そもそもこの路線も通勤の人たちがたくさんいる路線なので、そこにその子どもたちが入っていくことに対しては、やはり抵抗を感じる方もいると思うので、これからの意見収集であったり、それに対しての代案を考えていくことを検討してほしい。

委員 例えば路線バスを使うとして、小学1年生の子が駅前経由で通わないといけないということはあるか。駅前の乗り換えは、子どもにとってはとてもじゃないけれどもできることではないと思う。

例えば、滝の沢近辺に住んでいる子たちは、本町田東小のほうに行くバスが直接はないので、駅前経由かもともものすごく歩いてからバスに乗るということになるのか。

学務課 例えば藤の台団地から山崎団地センターを通過して、真っすぐ今の本町田小の通りに入るバスと、それから、今井谷戸を経由して町田駅に出ていくバス路線の2路線は、今のところは想定をしている。駅に出て、それから折り返してもう一度学校に向かってくるということは今想定していない。困難な場合にはそれ以外の交通手段で検討していくということで今は考えている。

2025年に本町田小の場所に移るにしても、2028年に本町田東小の場所に戻るにしても、いずれにしても想定している路線はそれしかないなので、それ以外で、もし負担軽減を求めなくてはいけないときには別の手段を考えていく。

3 新たな学校の運用体制について

教育総務課 (資料3説明)

新たな学校の運用体制について、ソフト面(運用面)を変えていくことを想定している。新たな学校において、教員が教育活動の根幹を担うことに変わりない。変わるのには必ずしも教員が担う必要がない部分であり、この部分に民間の力を導入するこ

とで、教員が教育活動に専念することのできる環境をつくり出すとともに、学校施設を地域活動の拠点として使いやすくしたい、今あるコミュニティスクールの取組に民間の力を加えることで、学校でできることの幅を広げていきたいと考えている。

主なポイントは★印の2、5、6。

★2では新たな学校で目指すこと記載している。

1点目は、みんながどう地域拠点にする。こちらについて、新たな学校では、さらなる学びや、各地域ならではの活動、特色が生かせるような活動ができる場所にしていくこと。

2点目は、教員が教育活動に専念できる環境にする。教職員でなくても担える業務、例えば、施設開放や、建物の維持管理の仕事を教職員から切り離すことを考えている。これらの仕事に関して民間の活力を導入することで、教員が教育活動に専念できる環境の実現をしていくことを目指している。

★5について、「みんながどう地域拠点にする」ために導入したいことということで、課外活動や授業でできることの幅を広げていくこと、例えば、授業で習ったことを実践する理科や算数の特別講座であったり、まちとも連携した遊びや学び、プールの授業でインストラクターが指導するということであったり、中学校であれば、外部指導の幅を広げることで部活動の種目を増やしたり、専門コーチによる指導をしたりすることが考えられる。

さらには、教育関係やスポーツ関係事業者などによる放課後における子どもの居場所づくりと併せて、学校で学習塾や習い事ができるようにする、こうした可能性があるのではないかと考えている。

また、地域の方々が学校に集まるような事業を展開し、学校を利用してもらう。そして、地域の活動に子どもを取り込んだり、子どもの活動の幅を広げたり、地域の人同士のつながりが生まれたりすることを実現したいと考えている。

このようなことに関しては、現在実施している民間活力導入可能性調査において、実現の可能性を探っている。

★6ではこのような取組をしていくに当たって、教員の負担を増やすことがないよう、民間が学校施設の維持・運営に関わる範囲を時間帯によって変えようと考えている。具体的には、授業がある時間帯とそうでない時間帯で施設のセキュリティーラインを変えることによって、教育活動を優先しながらも、地域拠点として学校施設を使用できる幅を広げようと考えている。

委員

バラ色の内容には聞こえたが、例えば、建物全体の維持管理、今で言えば雨漏りとか、そのような維持管理もこの民間にしてもらえとか、体育館や校庭の施設開放の業務を民間にってもらえとか、ボランティアコーディネーターの方と一緒に地域の方を探してくれて、子どもたちのための授業をより活発にするみたいなバラ色のイメージは持つが、民間はこれでどういうメリットがあるのかがよく分からなかった。

一番最後の中の話にあった授業がある時間は、基本的にほぼ全て学校が優先利用するが、放課後とか休日は、ほぼ全て民間が使う、そういうことも前提でこれからA案、B案、C案を検討してほしいということは、子どもたちの授業がある時間だけを主体的に考えるのではなくて、民間にとっても使いやすいかという視点も入れる必要があるのか。

教育総務課

新しい学校につきましては、今後、地域の方々も利用できるというふうにしたいため、例えば正門から地域開放の区画までの動線や学校の配置を考える上でこの部屋はこの場所にあったほうが便利なんじゃないかということも考えていきたい。

4 本町田地区の新たな学校の施設整備について

松田平田設計

(資料4-1説明)

どの案がよいかを選ぶわけではなく、校門はどんな位置がいいんだろうか、駐車場はどこにつくったらいいんだろうかといったアイデアをいただきたい。

望月委員

(資料4-1のうち、校地の現況について説明)

本町田東小学校は、斜面の途中を造成・整形した敷地に建つ学校で、周囲は道路を挟んで、住宅・団地・幼稚園等が建っており、四方をのり面(斜面)で囲まれている。この敷地に新校舎を建設する際には、校舎の位置と形に工夫が必要であることと、校門の位置が重要なポイントになると思う。

松田平田設計

(資料4-2説明)

あくまでもイメージの案としてA~C案を出しており同じ条件で描いている。

1つ目は、現在の校舎が建っている地面を有効活用するため、今の地面をいじっていない中で校舎を建てたらということ。

2つ目は、3階建てで共通。4階になれば、校舎が少し小さくなって高くなるが、グラウンドとか駐車場などのスペースが少し広がっていくという可能性もある。

校舎と体育館が現況では分かれている、今回は校舎と体育館を一体にしたイメージで描いている。

プールについては一番最上階に屋内化できるような位置で描いている。ただ、プールを集約するなどの場合には変更が出てくる可能性もある。

駐車場については、車両出入口という形で描いている。敷地の右斜め上の部分。道路のところとうまく入ってくる高さが、この1点しか今現在はないので、北側に駐車場としている。

普通教室としてピンクで描いている部分については、南側と東側に向けた教室ということで共通している描いている。

A案とB案の違いというのは、B案は教室の長い部分、南に延びている部分をグラウンドの部分と入れ替えて西側にグラウンドを持ってくるとこういうような配置になる。藤の野台団地のほうに校舎が近づいてくるという形。その代わりに、西側の鎌倉街道側にすごく開けたスペースが出てくる、

C案はA・B案とは全く違う形。南側にグラウンド、北側に校舎をコンパクトにま

とめるとどうなるだろうか、中庭も取って考えるとこういう形。

これら以外のやり方も当然ある。今回は面積としてはA案もB案もC案も全体の大きさは同じということ为前提にしましてご用意したのがC案。もちろん、北側にグラウンドを持ってくる案もあったが、まずは南側にグラウンドを前提とした3案。

あくまでもこれをベースに議論して、各グループで発表してほしいと考えている。

[ワークショップ]

Aグループ

本当にたくさん意見が出たが、話し合いの中で出たものを幾つかご紹介したい。

最初に出たのが車両の出入口の取り方、やっぱり子どもと車の出入口をしっかりと分けたいという意見が出た。どうやったらうまく分けられるかというところが課題になってくると考える。

あともう一つが東側、団地のほうからの視線。B案だと遮られるよさは出てくるが、A案の見られるよさもある。ただ誰に見られるか分からないという、そういった不安がA案はあるのではないかという意見もあった。

C案については、一般の方に開放したときに教員と混在してしまうんじゃないか、使い勝手という点では、ちょっとC案は使いづらいのかなという意見も出た。

Bグループ

3つの案の共通については多く出た。とにかく車と子どもたちの動線、入り口の問題点、この安全性をどう確保するのか、これは3つとも同じ。この配置案だとそこがよく分からない。それをやっぱり明確にしていく必要があると思う。そのために、例えば、門がこの位置で大丈夫なのか。西門を設置しなきゃいけないんじゃないだろうかとか、車両門と分離すべきだとか、もし仮にスクールバスを入れるとしたらロータリーをどこに造るのかというところが、今の段階では、これではちょっと見えないということ。

A案では、外からの視線と日当たりの良さもあるが、一番出てきたのが、西側の大きな斜面（のり面）。ここの地盤は大丈夫なのか、安全性を確保する必要があるだろうということ。

B案では、教室、校庭が見えないとか。廊下がどこにあるのかによって日当たりが全然違う。次回示していただくときには、廊下をどこに考えているのか、教室がどっちに向いているのかが見えてくると、日当たりのことが話をできるんじゃないか。

C案では中庭の使い方、4つの角の角部屋はどうなるのか、全く日照が入らない部屋ができるんじゃないかとか意見が出た。コの字の校舎はできないのかとか、いろんな案が出たが子どもたちと車の出入りの門の位置と、それから、校舎の安全性を取るためにどれがいいのかということ。それをより詳しく検討していかないとけないという状況かと思う。

Cグループ

Cグループも児童の入り口と車の入り口を分ける、あるいは駐車場の位置を考え

るというようなことが出ていた。

西側の斜面（のり面）の活用を考えるとということが話題としては出た。それから、校庭を実際に使うときに、これからの時代で考えると、徒競走を実際にするであったり、運動会するときであったり、ただ単にコースが取ればよいということではなくて、保護者が運動会するときとかに見られるような配置は必要だと思う。これからの学校をつくっていくのであれば、どの学校も熱中症対策という課題が出てくるので、ベランダをちょっと長めに取って、2階のベランダが長くなって日陰ができるような校舎という意見も出た。本町田小学校は2階がそういうふうに広く取ってあって、保護者がベランダから運動会を見られるようになっているので参考になるかなと思う。

ただ、A案、B案、C案それぞれにいいところもあって、それぞれの特色は出ていたと思うが、実際には、本町田東小学校の校舎に子どもたちが通うようになっていくと、圧倒的に校舎の南側と東側から通ってくる児童の数が多くなるわけなので、そのあたりの入り口の設置の場所、正門の設置の場所とかも大事。

あと、アグレッシブな案として、半地下の校舎を建てるとか、鎌倉街道から歩道橋を造るというような案もあった。ただ、やっぱり時間がちょっともう足りないので、このぐらいの時間でこれだけ出してしまうぐらいなので、本当に校舎を造るということについての意見集約もどんどん時間を取って、皆さんの意見はどんどん吸い上げてみるのも面白いかなというふうに思った。

5 第3回基本計画開催概要

教育総務課 2022年4月15日（金）14：00～町田第三小学校を予定。

6 閉会

会長 （閉会の挨拶）